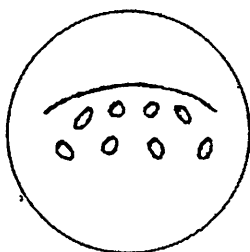


東京蜘蛛談話会誌

KISHIDAIA

No. 12



東京蜘蛛談話会

東京都日野市豊田1,896 萱嶋泉方

PHONE : 0425 - 81 - 7128

天竜市山東付近のクモ

小林久俊

Hisatoshi KOBAYASHI; On the spiders of Yamahigashi
(Tenriu City, shizuoka Prefecture)

静岡県は気温が温暖でクモについても興味深い所である。筆者は静岡県天竜市
山東において1968-69年において採集を行い今までに同定し得た21科93種につ
いてリストを発表しておく。静岡県のクモはかなり先人の業績があるが今回は筆
者の採集し得た種のみにとどめさらに完全なリストは今後の調査同定の結果改め
てまとめたいと思つている。採集年月日は一部のもののみとした。

ANTRODIAETIDAE

カネコトタテグモ科

1. *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch) Sept, 7th, 1968, 2♀♀

カネコトタテグモ

CTENIZIDAE

トタテグモ科

2. *Ummidia fragaria* (Doenitz)

キノボリトタテグモ

ATYPIDAE

ジグモ科

3. *Atypus karschi* Doenitz

ジグモ

4. *Calommata signatum* Karsch

ワスレナグモ

DICTYNIDAE

ハグモ

5. *Dictyna felis* Boes. et Str.

ネコハグモ

ULOBORIDAE

ウズグモ科

6. *Uloborus varians* Boes. et Str.

ウズグモ

7. *U. sybotides* Boes. et Str.

カタハリウズグモ

8. *Miagrammopes orientalis* Boes. et Str.

マネキグモ

9. *Hyptiotes affinis* Boes. et Str. Jan. 4th, 1970. 1♀

オウギグモ

SEGESTRIIDAE

エンマグモ科

10. *Ariadna lateralis* (Karsch)

ミヤグモ

11. *Segestria komatsuana* Komatsu Sept. 8th, 1969; 4♀♀

コマツエンマグモ

SCYTODIIDAE

ヤマシログモ科

KISHIDAIA, 16 12 1969, 12

12. <i>Scytodes thoracica</i> (Latreille)	ユカタヤマシログモ
THERIDIIDAE	
13. <i>Ariamnes cylindrogaster</i> Simon	ヒメグモ科
14. <i>Phoroncidia pilula</i> (Karsch)	オナガグモ
15. <i>Theridion tepidariorum</i> C. Koch	ツクネグモ
16. <i>T. japonicum</i> Boes. et Str.	オオヒメグモ
17. <i>T. raplum</i> Yaginuma	ヒメグモ
18. <i>Ohryssa punctifera</i> (Yaginuma) July, 27th, 1968, 1♂	ギボシヒメグモ
MIMETIDAE	
19. <i>Ero japonica</i> Boes. et Str.	ホシミドリヒメグモ
UROCTEIDAE	
20. <i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	センシヨウグモ科
PHOLCIDAE	
21. <i>Pholcus phalagioides</i> (Fuesslin)	センシヨウグモ
22. <i>P. crypticolens</i> Boes. et Str.	ヒラタグモ科
23. <i>Simonius typicus</i> Kishida July, 31st, 1968, 1♂, Aug. 1st, 1968, 1♂	ヒラタグモ
ARGIOPIDAE	
24. <i>Araneus ventricosus</i> (C. Koch)	ユウレイグモ科
25. <i>A. fuscocoloratus</i> Boes. et Str.	イエユウレイグモ
26. <i>A. lugubris</i> (Walckenaer) Aug., 1st, 1968, 1♀	ユウレイグモ
27. <i>A. pseudocentroides</i> Boes. et Str.	シモングモ
28. <i>A. sia</i> Strand	コガネグモ科
29. <i>A. pentagrammicus</i> (Karsch)	オニグモ
30. <i>A. mitificus</i> (Simon)	ヤマイロオニグモ
31. <i>Araneus semilunaris</i> (Karsch)	コゲチャオニグモ
32. <i>A. ejusmodi</i> Boes. et Str.	トガリオニグモ
33. <i>Neoscona scylla</i> (Karsch)	ズグロオニグモ
34. <i>N. doenitzi</i> (Boes. et Str.)	アオオニグモ
35. <i>N. nautica</i> (L. Koch)	ビジヨオニグモ
36. <i>N. scylloides</i> (Boes. et Str.)	マルズメオニグモ
37. <i>N. mellotteei</i> (Simon)	ヌサオニグモ
38. <i>Zilla sachaliensis</i> (Saito)	ヤマシロオニグモ
39. <i>Acusilas coccineus</i> Simon	ドヨウオニグモ
40. <i>Larinia argiopiformis</i> Boes. et Str. Sept., 6th, 1969, 2♀♀Nymph	イエオニグモ
41. <i>Argiope amoena</i> L. Koch	サツマノミダマン
42. <i>A. bruennichii</i> (Scopoli)	ワキグロサツマノミダマン
43. <i>A. minuta</i> Karsch Sept. 2nd, 1968, 1♀	カラフトオニグモ
	ハツリグモ

44. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell オオトリノフンダマシ
45. *C. yunoharuensis* Strand アカイロトリノフンダマシ
46. *Cyrtophora moluccensis* (Doleschall) Sept., 5th, 1968, 1♀
スズミグモ
47. *Nephila clavata* L. Koch ジョロウグモ
48. *Cyclosa laticauda* Boes. et Str. Aug., 2nd, 1968, 1♀
49. *C. ginnaga* Yaginuma ムツデゴミグモ
ギンナガゴミグモ
50. *C. octotuberculata* Karsch ゴミグモ
51. *C. sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ
52. *C. atrata* Boes. et Str. カラスゴミグモ
53. *C. argenteo-alba* Boes. et Str. ギンメツキゴミグモ
54. *Chorizopes nipponicus* Yaginuma ヤマトカナエグモ
55. *Meta kompirensis* Boes. et Str. タニマノドヨウグモ
56. *M. yunohamensis* Boes. et Str. メガネドヨウグモ
TETRAGNATHIDAE アシナガグモ科
57. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグモ
58. *L. subgemma* Boes. et Str. キララシロカネグモ
59. *Tetragnatha praedonia* L. Koch アシナガグモ
60. *T. japonica* Boes. et Str. ヤサガタアシナガグモ
ARGYRONETIDAE ミズグモ科
61. *Cybaeus nipponica* (Uyemura) カチドキナミハグモ
62. *C. mellottei* (Simon) Dec., 31st, 1969, 1♂
ナミハグモ
PISAUROIDAE キシダグモ科
63. *Dolomedes sulfureus* L. Koch イオウイロハンリグモ
64. *D. hercules* Boes. et Str. スジボケハンリグモ
65. *D. raptor* Boes. et Str. July, 20th, 1968, 1♀ Nymph
アオグロハンリグモ
66. *D. saganus* Boes. et Str. July, 20th, 1968, 1♀
スジアカハンリグモ
LYCOSIDAE ドクグモ科
67. *Lycosa pseudoannulata* (Boes. et Str.) キクズキドクグモ
68. *Pardosa T-insignita* (Boes. et Str.) ウズキドクグモ
69. *Pirata subpiratica* (Boes. et Str.) キバラドクグモ
70. *P. procurva* (Boes. et Str.) チビドクグモ
OXYOPIDAE ササグモ科
71. *Oxyopes sertatus* L. Koch ササグモ
AGELENIDAE タナグモ科
72. *Agelena limbata* Thorell クサグモ
73. *A. opulenta* L. Koch コクサグモ

74. <i>Coras luctuosus</i> (L. Koch)	メガネイオグモ
75. <i>Coelotes antri</i> Komatsu	ホラズミヤチグモ
76. <i>C. exitialis</i> L. Koch	ヤチグモ
THOMISIDAE	
77. <i>Mismenops tricuspидatus</i> (Fabricius)	ハナグモ
78. <i>M. japonicum</i> (Boes. et Str.)	コハナグモ
79. <i>Thomisus labefactus</i> Karsch	アズチグモ
80. <i>Xysticus croceus</i> Fox	ヤミイロカニグモ
SALICOIDAE	
81. <i>Hasarius adansoni</i> (Audouin)	アダンソンハエトリ
82. <i>Menemerus confusus</i> Boes. et Str.	シラヒゲハエトリ
83. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)	アオオビハエトリ
84. <i>Harmochirus brachiatus</i> (Thorell)	ウデブトハエトリ
85. <i>Plexippus paykulli</i> (Audouin)	チヤスジハエトリ
86. <i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)	アリグモ
OLUBIONIDAE	
87. <i>Chiracanthium eutittha</i> Boes. et Str.	アシナガコマチグモ
88. <i>Clubiona japonicola</i> Boes. et Str.	ハマキフクログモ
89. <i>C. vigil</i> Karsch	ムナアカフクログモ
90. <i>Trichelas japonica</i> Boes. et Str.	ネコグモ
91. <i>Orthobula crucifer</i> Boes. et Str.	オトヒメグモ
OTENIDAE	
92. <i>Anahita fauna</i> Karsch	シボグモ
HETEROPODIDAE	
93. <i>Heteropoda venatoria</i> (Linnaeus)	アシダカグモ

記事募集のお知らせ

本誌も12号を発行するに至りました。今までは談話会員の記事のみで編集してきましたが、本誌をお読みいただいている方々から広く原稿を募集することにいたしました。ちよつとしたクモの観察記事、他の人々への呼びかけ、文献紹介、お願い、クモにまつわる話、提案、etc.クモヤクモの研究に関することでしたら何でも結構です。学会誌に発表するに至らないような簡単な記事も多いに歓迎いたします。本誌を通じてクモ屋の親睦を深めるようにしたいと思っております。

文献紹介

Augen und Systematik bei den Araneae

HEINRICH HOMANN (松本誠治)

Senck. biol. Vol. 47, No. 1 (1966) に載せられた4ページ (pp. 63-66) の論文である。眼の構造、特に副眼のタペツムの構造及びその発生によつて今までの分類体系と比較考察している。

彼は最初に眼の配列は、多くのクモでは2列であり、ドクグモ科、ササグモ科では3列あるいは4列になっているが、これらも発生初期には2列であつて、その後の移動によつて、3列あるいは4列になることから、これらのクモの眼は、2次的な配列を示していると言う。又、配列が構造上及び発生上の必然の結果であるならば、今まで考えられていた以上に眼の配列を重視してもよいであろうと言う。

次に、構造上、主眼と副眼に大別されていることを述べ、¹⁾主眼については神経束の進行状態に違いがあるほかは、全てのクモにおいて、その構造は一樣であるけれども、カニグモ科のクモの主眼では網膜の中間に色素がみられ、又、ハエトリグモ科とリソマネス科 (Lyssomanidae) では、非常に長い主眼を持つていることを特記している。

副眼はタペツムの形態によつて、3型に大別される。特別な配列を示さずに、眼底全体にタペツムを作つている眼は原始的タイプ (Der primitive Typ) と呼ぶことにするが、このタペツムのあるクモは直顎類 (Drthognatha)²⁾と単性域類 (Haplogynae) に属するクモである。第二の型はカヌーの骨組のような形にタペツムが眼底に配置することから、MARX はカヌー型タペツム (das kanoeförmige Tapetum) と呼んだ。第三の型は、BERTKAU によつて格子状タペツムを持つ眼 (Augen mit rostförmigem Tapetum) と呼ばれたように、タペツムは格子状に存在しており、スオウグモ科、シボグモ科、ポロアミグモ科、アカントクテスス科 (Acanthoctenidae)、ドクグモ科、キシダグモ科、カニグモ科及びササグモ科のクモでみられる。彼はドクグモ科、キシダグモ科及びササグモ科で観察された眼の発生は同じであつたことから、これらの科はかなり長く同族であつたと考えられるといい、又、二爪類であるシボグモ科のクモの眼の発生が、三爪類のドクグモ科のクモの眼の発生と同じ発生をするのは興味深いという。又、タペツムが格子型からカヌー型への移行を示しているスオウグモ科のクモは、飼育観察によれば、徘徊性であるが、時々少量の梳糸で小さなくぼんだ巣を作り、卵のうは梳糸で紡がれると、生態的にも造網性から徘徊性への移行を示すとその一致性をとりあげている。

今までの分類体系と比較すると、格子状タペツムを持つクモは、転節上に欠刻を有するなど外部形態も似ていることから、より近縁関係にあることを考察しているが、篩疣や3爪を基とした分類との関係について、先ず Oupiennius がシボグモ科のクモとされているにもかかわらず3爪であること、Zorocrates (スオウグモ科の一属) は幼生時には3爪であるが成体になると2爪になることなどの例を掲げ、3爪類という分類範ちゅうの再検討を要求している。又、篩疣類が、1元的であるか、多元的であるかの疑問があるので、その発生、特に篩疣と毛櫛との発生の研究成果を期待しているといい、次の文で、論文を完成させている。

Bevor unsere Kenntnisse auf diesem Gebiet nicht erweitert sind, scheint mir eine Diskussion über diese Frage keinen Erfolg zu bringen.

訳注: 1) 主眼・副眼の呼び方は、サソリなどからの名を転用したもので、クモでは主眼は、前中眼、副眼は、その他の眼に当る。

又、網膜細胞の桿状体と核の位置から、前中眼を後在桿状体眼、他を前在桿状体眼と呼ぶこともある。

2) 原疣類 (Protothelae) と同じ。

KISHIDAIA, 612 1969, 12

クモの記事 (2)

大河内 香 二

虫の不思議 (3)
万足卓 訳註
昭和31年8月11日 ￥110
大学書林語学文庫 Nr. 760

本書はドイツ語の対訳本で、クモの項の著者は Ernst Abt. クモの一般生活を取り扱っている。訳語に多少問題もあるが、クモの好きな人でドイツ語を勉強する人に最適。

J.F.ヒナーン著 丹羽 小弥太 訳
分子と人間 分子生物学入門
1968年11月25日
法政大学出版局 ￥850

本書の中でV天然の紡織機械という項でクモを扱っている。内容はクモの応用面で有名になったピーター N ウィットのクモの網による薬物検定で、その研究の方法と共に研究の土台とな

ったクモの行動にも少し触れている。

ニコ テインバーゲン著 丘 直通 訳
ライフ大自然シリーズ9「動物の行動」
昭和44年12月25日
タイム ライフ インターナショナル ￥650

前に一度出版されたシリーズのコンパクト版。目次の裏に Argiope の写真があるが上下が逆になっている。この中の「行動の機構」の中で、前書と同じピーター N ウィットによる薬物投

与とクモの網の関係が扱われている。前書と異り結果の紹介だけでおわっているのが残念。

V B ドレシャー著 渋谷 達明 訳
動物の神秘をさぐる
動物の不思議な感覚と生態
1969年11月29日
白 揚 社 ￥680

クモの断片的な生態などがいくつか載っている。中でもクモと狩獵バチの話が中心で、トタテグモの巣を襲う特殊なバチの記事がある。又、食虫植物の中に棲むクモの話もあり興味深い。一般書であるから文章に気になる点も

みられる。

生物学大系 1
無脊椎動物
昭和27年6月30日
中山書店 ￥1200

初心者に最適な本と思われる。

N.J.ベリール著 山本七平訳
生物の生態
昭和31年3月30日
山本書店 ￥280

ころもある。図はBristoweのものと良く似ている。

蜘蛛類の項の著者は常木勝次氏。クモの一般的な解説がされており、形態的特徴、生活形、網、造網方法、糸、繁殖、外敵などが、豊富な図や写真と共に平易に書かれている。中学生など

クモの配偶行動の記事がある。訳語が不適な点もみられるが、フクログモ（ドクグモを指しているのかも知れない）、カニグモ、タラントグモなどの観察と図があるが、図と一致しないと

KISHIDAIA №12

1969年12月20日 印刷

1969年12月21日 発行

東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市豊田1896

萱 嶋 泉 方

PHONE 0425 (8) 7128
